

令和 2 年度

江津市教育委員会 点検・評価報告書

令和 3 年 1 2 月

江津市教育委員会

1. 趣 旨

平成20年4月から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部が改正、施行され、各教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため、法第26条の規定に基づき、令和2年度事務の管理及び執行の状況について、学識経験者2名の意見を聴き、点検・評価を行なったものです。

2. 対象事業

本年の点検・評価の対象事業は、前年度である令和2年度分の主要な施策の実績を対象としました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和2年度教育委員会活動状況

対象期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

1 教育委員会の開催

定例会 12回 臨時会 1回

2 教育委員会議での審議状況

(1) 議決事項

○職員（教職員を含む）の人事に関すること

令和2年度主任等の任免について

江津市人権・同和教育推進協議会委員の委嘱について

学校関係者評価委員の委嘱について

教職員人事について

教育委員会職員の任免について

○令和3年度使用中学校教科用図書採択について

○成年年齢引下げ後の江津市成人式の取り扱いについて

○令和元年度江津市教育委員会点検・評価について

○教育委員会等規則の制定及び改廃について

江津市立小、中学校管理規則の一部改正について

江津市立小、中学校の教職員の服務規則の一部改正について

江津市教育委員会事務局組織規則の一部改正について

江津市小・中学校学級編制基準について

江津市教育委員会が所管する学校の施設に係る指定管理者の手続等に関する規則の制定について

江津市教育委員会規則で定める申請書類等の押印の特例に関する規則の制定について

○校区外就学許可について 小学生 22名 中学生 8名

○校区外入学許可について 小学生 6名 中学生 3名

(2) 協議事項

教科書採択について

成年年齢引下げ後の江津市成人式の取り扱いについて

令和元年度教育委員会点検・評価報告書（案）について

共同学校事務室の設置について

教育大綱について

江津市教育施設長寿命化計画について

(3) 報告事項

江津市放課後児童クラブ設置条例施行規則の一部改正について

江津市学校司書等配置事業要綱の一部改正について

相談箱の投函に係る対応等について

教科書採択について

新型コロナウイルス感染症への対応について

6月補正予算（案）について

生徒指導・特別支援教育に関する報告について

令和２年度全国学力・学習状況調査に係る対応について
教育委員の学校訪問について
スクールサポートスタッフ、学習指導員の配置について
学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業について
江津市中学校部活動交流会について
江津市要保護及び準要保護児童生徒就学援助費支給要綱の一部改正について
発掘された江津の宝 7 選展示解説について
江津市人権・同和教育講演会の開催について
２学期学力育成の取り組みについて
８月補正予算及び９月補正予算（案）について
新型コロナウイルス感染症対応に係る修学旅行の基本方針について
新型コロナウイルス感染症発生時の対応について
市内小中学校の体育祭（運動会）・文化祭（学習発表会）について
GIGAスクール構想の実現に向けた児童生徒１人１台端末整備事業について
共同学校事務室の設置について
全国学力・学習状況調査（江津市独自実施）結果について
小学校プログラミング教育研修会について
生徒指導・特別支援教育に関する１学期の状況報告
江津市小中学校働き方改革推進委員会実施報告について
特別教室空調設備整備工事の実施について
松林宗恵生誕 100 周年記念展示について
江津市共同学校事務室運営要綱について
１２月補正予算（案）について
江津市立小中学校公費外会計取扱要綱について
３学期の学力育成の取り組みについて
島根県学力調査（江津市独自調査）、３年生意識調査結果（概要報告）について
江津市人権施策推進基本方針について
令和３年度当初予算の概要について
令和２年度３月補正予算（案）について
教職員の勤務実態調査の結果について
令和３年度指導主事の体制について
島根県学力調査（江津市独自調査）結果概要について
江津市人権相談システム アンケートの集計結果
不登校・問題行動の（２学期末現在）状況
江津市中学校部活動指導員活用事業実施要綱の制定について
江津市教育委員会要綱等で定める申請書等の押印の特例に関する要綱の制定について
山中のお改めとシン狩り行事調査委員会設置要綱の制定について
江津市体育協会補助金交付要綱の一部改正について
桜江体育協会補助金交付要綱の一部改正について
江津市文化活動（今井美術館院展支援）補助金交付要綱の一部改正について

江津市PTA連合会補助金交付要綱の一部を改正する告示について

江津市スポーツリーダーバンク補助金交付要綱の一部改正する告示について

江津市放課後児童クラブ負担金収納取扱要綱の制定について

江津市教育委員会展示「人麻呂が来た道を探して〔古代山陰道周辺の遺跡〕」について

令和２年度教育委員会主要事業実施報告

対象期間：令和２年４月１日～令和３年３月３１日

事業名	ページ
１ 英語指導員招致事業	６
２ 江津市教育研究会助成事業	７
３ 不登校等支援事業	８
４ 学校司書等配置事業	９
５ スクールソーシャルワーカー活用事業	１０
６ 指導主事配置事業	１１
７ 学校空調整備事業	１２
８ 小学校特別支援学級運営費	１３
９ 小学校学力向上支援員配置事業	１４
１０ 小学校特別支援教育支援員配置事業	１５
１１ 小学校教育施設整備事業	１６
１２ 中学校特別支援学級運営費	１７
１３ 中学校学力向上支援員配置事業	１８
１４ 中学校特別支援教育支援員配置事業	１９
１５ 学校給食費	２０
１６ 社会人権・同和教育事業	２１
１７ 人権教育推進事業	２２
１８ 図書館運営事業	２３
１９ 社会教育活動費	２４
２０ ふるさと教育推進事業	２５
２１ 学校支援地域本部事業	２６
２２ 放課後子ども教室推進事業	２７
２３ 放課後児童クラブ事業	２８
２４ ふるさと・キャリア教育推進事業	２９
２５ 教育魅力化推進事業	３０
２６ 埋蔵文化財発掘調査事業	３１
２７ 総合市民センター費	３３
２８ ＧＩＧＡスクール構想整備事業	３４
２９ 新型コロナ感染症対策費（事務局費）	３５
３０ 新型コロナ感染症対策費（小学校費）	３６
３１ 新型コロナ感染症対策費（中学校費）	３７
３２ 新型コロナ感染症対策費（放課後児童クラブ事業）	３８
３３ 新型コロナ感染症対策費（学校給食費）	３９

1. 英語指導員招致事業

予算現額（円）	決算額（円）
21,232,000	21,147,577

ア、事業の目的・目標

外国から指導助手を招致し、全小中学校を訪問することにより英会話への意欲・ヒアリング能力・コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

4名の外国語指導助手により、市内全小中学校を巡回訪問し、英語指導を行った。

小学校においては、令和2年度より施行された新学習指導要領により、3・4年生においては週に1回、5・6年生においては週に2回の外国語活動および外国語科の授業の補助を行い、外国語に触れる機会を多く持つとともに外国語を使ったやり取りを楽しむ活動を行った。

中学校においてはヒアリング能力・英会話能力の向上のための授業補助の他、スピーチコンテストや英語検定受検者へのサポートも行った。

○事業の実績

●小学校・学年別訪問授業時数 1,712 時間 (単位：時間)

	郷田小	渡津小	江津東小	川波小	津宮小	高角小	桜江小
1 年 生	0	0	2	0	0	0	0
2 年 生	0	0	3	0	0	0	0
3 年 生	35	36	35	34	82	33	35
4 年 生	35	35	36	34	82	32	35
5 年 生	70	68	70	64	164	67	56
6 年 生	70	70	73	66	164	67	56
特別支援学級	0	3	0	0	0	0	0
その他全校行事等	0	0	0	0	0	0	0
合 計	210	212	219	198	492	199	182

●中学校・学年別訪問授業時数 1,240 時間 (単位：時間)

	江津中	江東中	青陵中	桜江中
1 年 生	152	65	63	103
2 年 生	145	65	102	78
3 年 生	140	57	95	82
特別支援学級	30	28	6	0
その他全校行事等	6	0	0	23
合 計	473	215	266	286

費 目	決算額（円）	備 考
報酬	15,379,400	外国語指導助手報酬
共 済 費	2,338,421	雇用保険料・社会保険料・労災保険料
旅 費	526,460	学校訪問旅費、研修旅費
需用 費	103,136	教材用消耗品
使用料及び賃借料	2,335,680	住宅借上料
負担金補助及び交付金	464,480	自治体国際化協会負担金、渡航費用負担金
合 計	21,147,577	

○事業の効果

小学校・中学校ともに外国語の基礎的な表現について外国語指導助手との関わりを通じて学び、学習したことを使って自分の気持ちや考えを伝え合ったり相手に尋ねたりすることでコミュニケーションへの関心を高め、意欲的な活動へとつながることができた。

市独自に行った中学校3年生に対する意識調査においても、「外国語の勉強が好きである」と回答した生徒の割合は昨年度よりも上回った。

ウ、評価及び課題

本事業により、小中学生がネイティブな英語に親しむ機会が増えている。小中学生の英会話への意欲やヒアリング能力、コミュニケーション能力の向上は、グローバル化が進む現代社会において重要であるため、今後も継続的に取り組む必要がある。

2. 江津市教育研究会助成事業

予算現額（円）	決算額（円）
5,452,000	2,720,269

ア、事業の目的・目標

「生きる力」をはぐくむ教育を実践するため、教科部会・専門部会等により組織的活動や各種事業を行い、本市の教育の発展に寄与する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

●情報教育講演会

①演題 「オンライン社会の中学生～考えて欲しいこと～」

②講師 NPO法人 常務理事 古野 陽一 氏

③実施日時及び場所

全校区 R2.11.18 18:30～20:00 江津中学校ミーティングルーム

江津中学校区 R2.11.18 14:00～15:30 江津中学校体育館

江東中学校区 R2.11.7 14:00～15:30 江東中学校体育館

青陵中学校区 R3.2.3 14:05～14:55 青陵中学校多目的ホール

桜江中学校区 R3.2.5 13:50～14:40 桜江中学校体育館

④参加者 総勢 643名

●江津市教職員研修会

①実施日時及び場所

R3.1.29 高角小学校

②実施内容

講義・演習 「新学習指導要領の趣旨を生かした算数科の授業と教材研究」

講師 島根県立大学 人間文学部保育教育学科 教授 齊藤 一弥 氏

対象 市内小中学校教職員 50人

○事業の実績

項 目	決算額（円）
1. 島根県小学校校長会負担金補助	154,000
2. 島根県中学校校長会負担金補助	84,000
3. 島根県教育研究会各教科・専門部補助金	218,750
4. 江津市教育研究会研究補助	290,100
5. 児童文化振興費補助金	187,780
6. 教職員研修会補助金	102,000
7. 校内研修会補助金	33,000
8. 江津市学校保健会補助金	160,000
9. 島根県学校保健会補助金	20,000
10. 江津市中学校職場体験事業補助金	120,000
11. 総合学習に伴う補助金（小・中）	506,000
12. 江津市小中学校資質向上研修補助	10,000
13. 小学校外国語活動充実事業補助	210,550
14. 情報教育講演会開催補助金	450,000
15. 修学旅行等に伴う引率経費補助金	174,089
合 計	2,720,269

○事業の効果

教育の充実は、直接の担い手である教員の資質能力に負うところが極めて大きい。

そしてその能力は研修等を通じて生涯にわたり形成されていくものであり、本事業はその意味において重要である。

ウ、評価及び課題

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動を制限したため当初予定していた活動が出来なかったものもあったが、各部会・校内において、感染拡大防止対策を取りながら、研究と修養に励むことができた。今後も、しばらくは同様の状況が続くと思われるが、内容を工夫しながら事業実施をしていきたい。

3. 不登校等支援事業

予算現額（円）	決算額（円）
10,906,219	8,981,775

ア、事業の目的・目標

教育支援センター（あおぞら学園）において、不登校及び不登校傾向の児童生徒への教育相談や体験活動、学習支援を行い、学校生活への復帰を支援する。
家に引きこもりがちな児童生徒に対しては家庭訪問や安心して過ごせる居場所を提供するなどの支援を行い、学校復帰（社会復帰）のきっかけを作る。

イ、施策の内容、実績及び効果

教育支援センター運営事業

○事業の内容

- 運営体制 教科指導員8名・指導員7名
- 開設場所 江津市教育支援センター あおぞら学園（江津保健センター内）
- 開設状況 曜日：月～金曜日 時間：9：30～16：00
- 主な内容
 - ・不登校児童生徒の在籍校、家庭や関係機関と連携しながら、集団生活への適応、基本的な生活習慣の改善等に取り組み、学校復帰への支援を行う。
 - ・児童生徒の抱える悩みに寄り添い、教科指導や体験活動、相談等を通して児童生徒の心の安定を図り、自己理解を図るとともに保護者の支援を行う。

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報酬	6,320,604	指導員報酬
職員手当等	537,148	期末手当
共済費	875,576	雇用保険料・社会保険料・労災保険料
旅費	157,670	生徒指導連絡会・家庭訪問等
需要費	832,393	消耗品・光熱水費・燃料費
役務費	158,752	電話料
使用料及び賃借料	99,632	コピー機使用料
合 計	8,981,775	

・利用実績：小学生8人、中学生14人（相談業務のみの利用も含む）

○事業の効果

個々の目標を設定し、集団生活への適応に向けて体験活動や学習支援を行ったことで学校への復帰に前向きな気持ちを持つことができた。
定期的に在籍校と支援方法等を検討する機会を設け、学校復帰へつなげることができた。
家に引きこもりがちな児童生徒が、外に出るきっかけとなり、居場所づくりとなった。
保護者の抱えている悩みに向き合い、継続して関わることで、保護者及び児童生徒の心の安定を図ることができた。

ウ、評価及び課題

家庭や学校以外に居場所を求めている子、学習に向きにくい体験的な活動には参加できる子など、子どもの実態、ニーズはさまざまであり、できる限り柔軟な対応を行ってきた。
今後ますます多様化する子どものニーズに合わせるために、よりきめ細かな対応が可能な指導体制を整えるとともに、中学校卒業後の相談窓口や支援につなげていくための検討が必要である。

4. 学校司書等配置事業

予算現額 (円)	決算額(円)
10,516,381	10,497,198

ア、事業の目的・目標

児童生徒の読書活動の推進及び学校図書館の効果的な活用・運営を図るため、小・中学校に学校司書等の配置を行い、学校図書館機能の充実を図る。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

市内全小・中学校に学校司書等（司書資格を問わない）を配置し、児童生徒へ本の紹介・アドバイス・リクエストへの対応、読み聞かせ等を行い、学校図書館機能の充実を図る。また、学校図書館を活用した授業への取り組みを行い、学びを深める場としての学校図書館の活用について実践研究を行った。

①学校図書館支援員【配置時間 2時間/日×5日/週×35週】 2校
江東中学校・桜江中学校

②学校司書等A－1【配置時間 5時間/日×5日/週×35週】 8校
郷田小学校・渡津小学校・江津東小学校・川波小学校・高角小学校・桜江小学校・
江津中学校・青陵中学校

③学校司書等A－2【配置時間 6時間/日×5日/週×35週】 1校
津宮小学校

○事業の実績

費 目	決算額 (円)	備 考
報酬	9,748,200	学校司書報酬
共 済 費	365,478	雇用保険料・社会保険料・労災保険料
謝 礼 金	60,000	研究事業講師謝礼金
旅 費	83,520	司書研修（浜田教育センター 等）
需用 費	57,010	研究用消耗品費
図 書 購 入 費	182,990	研究用図書購入費
合 計	10,497,198	

○事業効果

「人のいる図書館」の実現により、児童生徒に選書等アドバイスすることで様々な分野の図書への興味関心を引き出すことができ、読書活動の推進につながった。また、学校図書館の環境が整い、児童生徒が楽しく快適に利用できる場所となっている。その結果、児童生徒の読書量は増えており、学校図書館の持つ機能のうち読書センターとしての活用について成果が見られた。

また、司書教諭との連携により、授業で使う本の選定や準備、提供を行い、情報センターとしての学校図書館活用につながった。

さらに、令和2年度は郷田小学校が学校図書館活用教育研究事業に取り組み、学校図書館を活用した授業について研究実践を行った。研究授業を広く公開することにより、それぞれの学校の特色を活かした授業での学校図書館活用への可能性を広げる機会となった

ウ、評価及び課題

全ての学校で学校図書館を授業や調べ学習で活用しており、自ら学ぶための方法のひとつとして学校図書館の役割も定着してきている。

学校図書館が児童生徒にとって豊かな言語活動との出会いの場であるとともに、探究的な活動を通して情報活用能力を身に付ける場であるために、調和の取れた蔵書構成を行い、多様な統計資料や新聞等を配備し、学習活動に取り入れる取り組みを進めていく必要がある。

5. スクールソーシャルワーカー活用事業

予算現額（円）	決算額（円）
1,148,400	1,148,400

ア、事業の目的・目標

不登校や問題行動等の課題を抱えた児童生徒の背景には、複雑に絡み合った周囲の環境が影響していることが多いため、児童生徒の心に寄り添い支援するとともに、専門の関係機関と連携して環境に働きかけ、状況の改善を図り、健全育成へとつなげる。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- 運営体制 スクールソーシャルワーカー 1名
- 配置形態 派遣型
 - ・教育支援センター（あおぞら学園）に配置し、要請のあった学校や家庭に派遣し活動する。
- 活用方法 教育委員会の指導主事と連携し、困難な状況を抱える児童生徒を把握するとともに、在籍校や家庭への訪問を通して、状況の改善を図る。
- 主な内容
 - ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
 - ・関係機関等のネットワークの構築、連携・調整
 - ・保護者に対する支援・相談、教職員への情報提供

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	920,500	相談員（1名）報酬
職 員 手 当	148,330	期末手当
共 済 費	3,000	労災保険料
旅 費	76,570	家庭訪問・学校訪問・福祉施設訪問
合 計	1,148,400	

○事業効果

困難さを抱える児童生徒の家庭を訪問し、学校や教育支援センターへ向うよう支援した。
 学校や関係機関等とのケース会議に参加し、保護者や児童生徒の思いや状況を伝え、環境の改善に向けて連携を図ることができた。
 悩みを抱えている保護者と向き合い、前向きな気持ちで子どもと接することができるよう継続的に支援した。
 複雑な背景を抱えている児童生徒の家庭に対して、関係機関と連携し、問題解決のためネットワークづくりを行った。

ウ、評価及び課題

いじめに関しては、学校と連携し、子ども・保護者に寄り添った支援をきめ細かく行った。貧困問題への対応については、指導主事や市担当部局と連携して家族の就労支援、生活保護をはじめとする公的支援への橋渡し等を行った結果、好転したケースもあった。
 しかし、対応件数の増加に加え、単年度の関わりで解決することが難しく、長期的な支援を必要とするケースが多くなってきており、相談支援体制の強化への検討が必要である。

6. 指導主事配置事業

予算現額（円）	決算額（円）
12,553,000	12,358,036

ア、事業の目的・目標

生徒指導担当指導主事1名を配置し、不登校やいじめ等の課題に学校、関係機関と連携して取り組み、児童生徒の健全な育成につなげる。また、小学校籍と中学校籍の学力育成担当指導主事各1名を配置し、教科全般にわたり教員の授業力向上のための学校訪問を行い、児童生徒の学力育成につなげる。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

業務内容	小学校訪問回数	中学校訪問回数	合 計
生徒指導支援の学校訪問	77 回	21 回	98 回
授業力向上の学校訪問	186 回	94 回	280 回

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
職 員 手 当 等	313,978	指導主事時間外手当
旅 費	33,950	学校訪問、諸会議、研修等
需 用 費	67,108	教材、教育資料等
負担金補助及び交付金	11,943,000	指導主事派遣負担金
合 計	12,358,036	

○事業の効果

- ・家庭への働きかけが必要な児童生徒については、スクールソーシャルワーカーと連絡調整を行いながら福祉・医療等の関係機関との情報共有を元に対応することができた。
- ・不登校（傾向）の児童生徒への対応については、在籍校や関係機関と連携し、不登校状態の改善につながった事例があった。
- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業実現の下、児童生徒に学習指導要領で求められる資質・能力が育成できるよう、各校に研究等とも関連付けながら授業改善に向けたアクションプラン作成を依頼した。本プランを基に継続的な学校訪問を行い、課題設定や指導方法等に関する教員の改善意識を高めた。また、各校の求めに応じ研修を実施し、新学習指導要領や学習評価の理解定着に努めた。
- ・アクションプランのPDCAサイクルが推進されるよう、学力調査結果を学校ごとに分析し提供したり、「学力育成担当者会」においてプラン検証方法の説明や情報共有の場を設けた。
- ・令和2年度より教科化となった小学校外国語、小学校外国語活動、中学校外国語に係る授業力向上に向けて重点的な訪問指導を行った。併せて小中学校の教員を対象とした研修会を行い、学びの系統性・継続性への意識を高めることができた。
- ・「スキルアップ研修」として採用6年目程度（講師を含む）までの経験年数の少ない教員を対象に悉皆で訪問し、継続的な支援を行った。

ウ、評価及び課題

教育委員会に配置した指導主事の小中学校への支援、指導及び助言は、学校における生徒指導の充実や児童生徒の学力育成に大きく寄与しており、学校現場からも信頼されている。

学校訪問や「授業改善アクションプラン」の作成、実施やその検証を促すことなどにより、教員の授業改善に向けた意識改革が図られている。

また、学力・学習状況調査の結果分析等から見られた課題に対して引き続き授業改善、家庭学習等に視点を当てた取組みを各学校に促していく必要がある。

また、不登校（傾向）児童生徒の状況は複雑化しており、学校や各関係機関との連携をさらに深めるとともに、相談支援体制をより強化する必要がある。

7. 学校空調整備事業

予算現額 (円)	決算額(円)
58,352,000	57,448,600

ア、事業の目的・目標

全国的に酷暑が続き、熱中症で倒れる児童・生徒が増える中、教育現場におけるエアコン整備が喫緊の課題となっている。

主な特別教室へエアコンを整備することにより、児童生徒への暑さの負担を軽減し、より快適な学習環境をつくる。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容及び実績

事業期間：R2年度からR3年度まで 進捗率：67%

令和4年3月末までに市内小中学校の主な特別教室(音楽室、理科室等)へエアコンを設置する。

●学校別エアコン設置内訳

学校名	設置した主な特別教室		設置数	
			室内機	室外機
郷田小学校	※(理科室、音楽室)		—	—
渡津小学校	理科室	音楽室	4	4
江津東小学校	理科室	音楽室	3	3
川波小学校	※(理科室、音楽室)		—	—
高角小学校	P C 室	音楽室	3	3
津宮小学校	※(図工室、音楽室)		—	—
桜江小学校	理科室	音楽室	4	4
江津中学校	理科室(2室)	※(美術室)	4	4
江東中学校	理科室	音楽室	4	4
青陵中学校	理科室(2室)	※(美術室)	4	4
桜江中学校	理科室	音楽室	3	3
整備済み教室数	16	《小学校計》	14	14
令和3年度整備予定	8	《中学校計》	15	15
計画整備教室数	24	《小中合計》	29	29

※…令和3年度実施予定

●経費内訳

業 務 の 内 容			請負金額
委託料	実施設計業務		3,300,000
工事請負費	空調設備整備工事	(機械設備)	33,255,200
		(電気設備)	20,893,400
合 計			57,448,600

○事業の効果

エアコンを整備することにより、児童生徒への暑さの負担を軽減し、より快適な学習環境をつくることができた。

ウ、評価及び課題

令和2年度においては、計画通り24教室中16教室での設置を完了することができた。
令和3年度は、計画した残りの8教室について設置を進め、より快適な学習環境の確保に取り組んでいきたい。

8. 小学校特別支援学級運営費

予算現額 (円)	決算額(円)
966,000	832,680

ア、事業の目的・目標

小学校の特別支援学級に在籍する障がい等により特別な支援が必要な児童に対して支援を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

小学校7校に設置している特別支援学級及び津宮小学校に設置している通級指導教室において、支援を必要としている児童が適切な環境で学べるよう支援を行った。

○事業の実績

費 目	決算額 (円)	備 考
需用費	405,569	消耗品・燃料・光熱水費
役務費	56,541	通信運搬費
使用料及び賃借料	7,483	コピー機使用料（通級教室）
原材料費	30,469	工作等材料費
備品購入費	332,618	通級教室・特別支援学級の教材備品
合 計	832,680	

○事業の効果

障がいのある児童が、安心して学習できる環境づくりを行うとともに児童の力を最大限に伸ばすための教材等の整備を行うことができた。

ウ、評価及び課題

特別な支援を必要とする児童は年々増加しており、障がいの種類も知的・自閉情緒・病弱・弱視等多様であるため、それぞれの学級を運営するにあたって児童の状況に応じた教材等を整備する必要がある。

特別支援学級の環境整備については今後も児童の将来を見据え、引き続き検討・見直しを図る必要がある。

9. 小学校学力向上支援員配置事業

予算現額（円）	決算額（円）
5,221,226	5,207,271

ア、事業の目的・目標

児童の個々のつまずきを早く見つけ、きめ細かな個別指導の支援を行うことで、基礎的な学力の定着を図り、児童の学習意欲を高め、学力の向上を促す。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

児童一人ひとりの学力の伸長をめざし、個々のつまずきを早く見つけ、反復学習など丁寧な指導や発展的な学習内容を積極的に取り入れるために、小学校に学力向上支援員を配置した。

【年間配置時間：市内7校 合計 3,378時間】

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	5,198,226	報酬（学力向上支援員16名）
共 済 費	9,045	労災保険料
合 計	5,207,271	

○事業の効果

児童の困り感に寄り添えるので、教員の一斉指導で取り残されるといった不安感を軽減することができた。

児童のできるようになった自信や自尊感情を高められた。

児童の理解が進み、学習意欲の向上につながった。

学習規律の確立につながった。

「分からない」と言える雰囲気づくりができた。

児童のつまずきを担任と共有することで、効果的な指導へとつなげることができた。

ウ、評価及び課題

平成21年度より学力向上対策の一環として、全小学校へ学力向上支援員を配置しており、その活用については定着してきている。

さらに充実した事業にするためには、支援員の役割を明確化するとともに、担任と支援員が授業における支援方法について共通理解を図る必要がある。そのためにも、休憩時間等を活用し、児童の様子について情報交換する機会を確保するなど、支援員と教員がコミュニケーションを図れるような環境が必要となる。

令和2年度は支援員研修会を実施することができなかったが、児童への支援のあり方がより充実したものになるよう、支援員を対象にした研修は今後も実施していきたい。

また、密集を避けるために少人数で行う授業に対する支援も必要であり、学校からのニーズも高いため、今後も効果的な配置について検討していく。

10. 小学校特別支援教育支援員配置事業

予算現額（円）	決算額（円）
9,088,526	9,068,640

ア、事業の目的・目標

小学校に在籍する「学習障がい（LD）・注意欠陥多動性障がい（ADHD）・高機能自閉症」等の教育的支援が必要な児童に対して、特別支援教育支援員を配置して、学校生活上の介助や学習活動の支援を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

平成18年6月の学校教育法の一部改正に基づき、小学校に在籍する発達障がい等により特別な支援が必要な児童に対して、学校における日常生活上の介助や、学習活動上の支援を行うために、小学校に特別支援教育支援員を配置した。

【年間配置時間：市内7校 合計 6,938時間】

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	9,051,526	報酬（特別支援教育支援員22名）
共 済 費	17,114	労災保険料
合 計	9,068,640	

○事業の効果

授業に集中して取り組むことができない児童や指示が伝わりにくい児童への声掛けや個別に支援をすることで、落ち着いて学習できる環境をつくることができた。

担任と連絡ノートを使用して、情報交換や支援の方法について細かく連絡をとり、必要な支援を適切に行うことができた。

担任と支援員とが複数で関わることで、多角的な視点から児童理解が深まり、効果的な支援を学校全体で行うことができた。

ウ、評価及び課題

平成19年度より全小学校へ特別支援教育支援員を配置している。近年、特別な支援を必要とする児童が増えており、学校からの要望は高くなっている。

令和2年度は支援員対象の研修会を開催できなかったが、児童への支援のあり方について具体的に考えるとともに児童理解を図るため、今後も研修内容を検討しながら継続的に実施する必要がある。

また、よりよい学習環境を整えるためには、担任と支援員が密に連携し、情報や指導方針等を共有し、全校体制で児童を支えていくことが大切である。そのためにも管理職や担任と支援員の情報交換の場を確保し、より連携を図るための手立てについて考える必要がある。

11. 小学校教育施設整備事業

予算現額(円)	決算額(円)
16,887,000	16,815,232

ア、事業の目的・目標

市内学校施設については老朽化が著しく進んでいるものが多いあるため、改修等必要な対策を行い、安全安心な学習環境を確保する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

小学校の校舎やその他施設の改修等を計画的に行う。

○事業の実績

シート防水による屋上防水改修工事を行った。

●建築物の概要

施設 高角小学校 教室棟
構造 R C 造 地上3階
面積 1,675m²
竣工 昭和48年3月
履歴 H23年度 耐震補強済み

●事業費

使用料及び賃借料 自動車借上料	78,732 円
工事請負費(高角小学校教室棟屋上防水改修他工事)	16,736,500 円
合計	16,815,232 円

●改修内容

高角小学校教室棟屋上防水改修他工事

【屋上防水改修】

- 塩化ビニル樹脂系シート防水
- 平場部 機械固定工法
- 立上部 接着工法

【その他】

- 1 F 土間コンクリート陥没部分補修
- 2 F (特別支援学級) ベランダ手摺隅柱腐食部分取替

○事業の効果

工事を実施したことにより、雨漏りがなくなった。

ウ、評価及び課題

雨漏りによる施設の破損や漏電等の危険を抑えることができ、安全安心な学習環境を確保することができた。市内学校施設については老朽化が著しく進んでいるものがまだまだ多くあるため、今後も計画的に安全安心な学習環境の確保に向けて取り組んでいく必要がある。

12. 中学校特別支援学級運営費

予算現額(円)	決算額(円)
435,000	312,745

ア、事業の目的・目標

中学校の特別支援学級に在籍する障がい等により特別な支援が必要な生徒に対して支援を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

中学校4校に設置している特別支援学級及び青陵中学校に設置している通級指導教室において、支援を必要とする生徒の困り感や保護者の要望に添い、個別対応による支援を行った。

○事業の実績

費 目	決算額(円)	備 考
需用費	125,797	消耗品
役務費	38,925	電話料・郵券代
原材料費	45,087	工作等材料費
備品購入費	102,936	教材備品
合 計	312,745	

○事業の効果

障がいのある生徒が、安心して学習のできる環境づくりをすることができた。

ウ、評価及び課題

特別な支援を必要とする生徒は年々増加しており、障がいの種類も知的・自閉情緒・病弱等多様であるため、それぞれの学級を運営するにあたって生徒の状況に応じた教材等を整備する必要がある。

特別支援学級の環境整備については生徒の将来を見据え、引き続き検討・見直しを図る必要がある。

13. 中学校学力向上支援員配置事業

予算現額 (円)	決算額(円)
4,977,000	4,511,036

ア、事業の目的・目標

生徒の個々のつまずきを早く見つけ、きめ細かな個別指導の支援を行うことで、基礎的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲を高め、学力の向上を促す。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

生徒一人ひとりの学力の伸長をめざし、個々のつまずきを早く見つけ、反復学習など丁寧な指導や発展的な学習内容を積極的に取り入れるために、中学校に学力向上支援員を配置した。

【年間配置時間：市内4校 合計 4,163時間】

○事業の実績

費 目	決算額 (円)	備 考
報 酬	4,502,146	報酬（学力向上支援員9名）
共 済 費	8,890	労災保険料
合 計	4,511,036	

○事業の効果

支援員の学習支援により、困り感のある生徒の学習意欲や学力の向上が図られた。
支援方法や学習状況など、担任・授業担当者と情報交換することで、授業改善を図ることができた。

ウ、評価及び課題

平成21年度より学力向上対策の一環として、全中学校へ学力向上支援員を配置しており、その活用については定着してきている。

さらに充実した事業にするためには、支援員の役割を明確化し、担任と支援員が授業における支援方法について共通理解を図る必要がある。そのためにも、休憩時間等を活用し、児童の様子について情報交換する機会を確保するなど、支援員と教員がコミュニケーションを図れるような環境が必要となる。

令和2年度は支援員研修会を実施することができなかったが、生徒への支援のあり方がより充実したものになるよう、支援員を対象にした研修は今後も実施していきたい。

また、密集を避けるために少人数で行う授業に対する支援も必要であり、学校からのニーズも高いため、今後も効果的な配置について検討していく。

14. 中学校特別支援教育支援員配置事業

予算現額（円）	決算額（円）
1,568,000	1,279,022

ア、事業の目的・目標

中学校に在籍する特別な支援が必要な生徒に対して、特別支援教育支援員を配置して、学校生活上の介助や学習活動の支援を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

平成18年6月の学校教育法の一部改正に基づき、中学校に在籍する発達障がい等により教育的な支援が必要な生徒に対して、学校における日常生活上の介助や、学習活動上の支援を行うために、中学校に特別支援教育支援員を配置した。

【年間配置時間：市内4校 合計 1,249時間】

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	1,276,561	報酬（特別支援教育支援員7名）
共 済 費	2,461	労災保険料
合 計	1,279,022	

○事業の効果

一斉指導では指示が通りにくい生徒に対し、教科書やノートの準備や読み取りについて支援員がサポートすることで、落ち着いた状態で、安心して学習することができた。

授業以外の時間において、学校生活上の支援を必要としている生徒のサポートを行い、安定した学校生活を送ることができた。

ウ、評価及び課題

平成19年度より全中学校へ特別支援教育支援員を配置している。近年、特別な支援を必要とする生徒が増えており、学校からの要望は高くなっている。

令和2年度は支援員対象の研修会を開催できなかったが、生徒への支援のあり方について具体的に考えるとともに生徒理解を図るため、今後も研修内容を検討しながら継続的に実施する必要がある。

また、よりよい学習環境を整えるためには、担任と支援員が密に連携し、情報や指導方針等を共有し、全校体制で児童を支えていくことが大切である。そのためにも管理職や担任と支援員の情報交換の場を確保し、より連携を図るための手立てについて考える必要がある。

15. 学校給食費

予算現額(円)	決算額(円)
119,894,000	108,672,678

ア、事業の目的・目標

安全安心で栄養バランスを考慮した給食を提供することによって、児童生徒の健やかな成長と、食の重要性、食に関する情報発信等の食育の推進に資する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

	学 校 名	実施日数(日)	実施食数(食)
配 食 実 績	郷 田 小 学 校	191	19,834
	渡 津 小 学 校	192	20,925
	江 津 東 小 学 校	195	20,769
	川 波 小 学 校	193	17,708
	津 宮 小 学 校	193	62,866
	高 角 小 学 校	195	48,681
	桜 江 小 学 校	188	23,106
	江 津 中 学 校	195	50,265
	江 東 中 学 校	197	12,513
	青 陵 中 学 校	196	47,381
	桜 江 中 学 校	191	12,065
	江津学校給食センター	199	4,052
	桜江学校給食センター	175	1,007
	合 計	2,500	341,172

○事業の実績

費 目	内 容 等	決算額(円)
報 償 費	謝礼金	5,000
需 用 費	光熱水費、消耗品費、修繕料等	28,613,768
役 務 費	電話料等	2,186,784
委 託 料	給食車運転業務委託料等	11,258,500
使 用 料 及 び 賃 借 料	C A T V、印刷機使用料等	660,452
備 品 購 入 費	調理用備品等	4,005,463
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	学校給食会運営費	61,772,911
公 課 費	給食車重量税	169,800
合 計		108,672,678

○事業の効果

調理員をはじめ学校給食に関わる職員を対象に衛生管理研修を行うことにより、一層の衛生管理の徹底が図られた。

食物アレルギーのある児童生徒に対しては、平成29年3月に策定した「江津市学校給食における食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき対応を行っている。また年2回開催している食物アレルギー対応検討委員会では、学校、小児科医等を交えて情報共有を図るほか、アレルギー対応の一連の流れにおける改善について意見交換を行うことにより、より安全安心な給食の提供ができた。

ウ、評価及び課題

調理員の研修等を継続的に実施し、衛生対策の強化を図ることにより、安全安心な学校給食の提供に努めた。また、食物アレルギー提供食について、ガイドラインに基づきヒヤリハットの事例を給食センター、学校、教育委員会が共有する等、事故防止に継続して努めていく必要がある。更に安心・安全な学校給食を提供するために、設備等の計画的な更新を行っていく必要がある。

16. 社会人権・同和教育事業

予算現額（円）	決算額（円）
4,204,000	3,582,050

ア、事業の目的・目標

同和教育問題をはじめとする人権問題を市民一人ひとりが正しく理解し、自らの問題として捉え、早期解決が図られるよう「差別をしない」「差別をさせない」「差別を許さない」姿勢とともに問題解決への行動力を培う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容、実績

概要	決算額（円）
●社会教育指導員の設置(1名) ●人権・同和教育推進協議会の開催（6月24日） ●県同和教育推進協議会連合会 研究集会・研修会等への参加 ●県人権啓発指導者養成事業 研修会・講座の受講 ●人権・同和教育研修会の開催（市職員研修等） ●教育集会所（波来浜ふれあい集会所）管理・運営等 ●「人権・同和教育講演会」 講演：8月7日（火）江津市総合市民センター 演題：「寝た子」はネットで起こされる ～ネット社会と部落差別～ 講師：川口泰司さん（山口県人権啓発センター事務局長） 参加者数：189人	2,959,470
●人権施策推進基本方針の策定	440,830
●地域人権・同和教育推進協議会活動事業の実施 ・4地域を指定コミュニティとして委託（波積・和木・二宮・市山）	152,750
●諸会議負担金（島根県人権教育研究大会参加費）	0
●島根県同和教育推進協議会連合会負担金	29,000
合 計	3,582,050

○事業の成果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、多くの講演会や研修会が中止となり、学習する機会・市民への教育啓発の機会が少なかったのが残念である。

人権教育講演会は参加者を限定しての開催となったが、アンケートからみると95%の人が意識が高まったと答えており、自由記述からも実態を知った驚きや、「過去の問題ではない」「正しい教育を確実にする」など差別解消に対する前向きな感想を得ることができた。

ウ、評価及び課題

同和教育問題をはじめ、多岐にわたる人権問題や、インターネット上での誹謗中傷の拡散、個人情報の暴露などの人権侵害についても、見過すことなく様々な機会を捉え、横断的な取り組みを積み重ねていく必要がある。

17. 人権教育推進事業

予算現額（円）	決算額（円）
652,000	407,208

ア、事業の目的・目標

「すべての市民の人権が尊重される、人権感覚豊かな明るい社会」の実現のため、学校・地域の人権教育を推進する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容及び実績

概 要	決算額（円）
●みんなで学ぶ人権講座の開催 期間：7月～3月 会場：8地域コミュニティ交流センター 参加者数述べ：133人 演題：「ハンセン病から学ぶ人権 ～新型コロナウイルスの今を考える～」 ●地域別人権問題研修会の開催 12月11日 江津中学校 絵本を通して人権を考える 参加者：264人 12月11日 桜江中学校 絵本を通して人権を考える 参加者：60人 ※江東中学校・青陵中学校は、感染防止のため中止 ●人権問題学習会の開催 6月12日 郷田小学校 メディアとのつきあい方 参加者：59人(保護者) 12月 3日 渡津小学校 差別の現実学ぶ（同和問題） 参加者：12人(6年他) 3月 4日 津宮小学校 「生きる」ということ（同和問題） 参加者：44人(6年) 3月 4日 桜江小学校 「生きる」ということ（同和問題） 参加者：20人(6年) ●人権・同和教育主任等研究協議会の開催（年3回） 内容：全体会（講演・講義）、分散会 テーマ：8/18 自尊感情を育むために 12/1 新型コロナから人権を守るために 2/24 LGBT等の人権を考える 参加者：延べ88人	266,769
●人権啓発作品展の開催（応募数775点 表彰数44点） 期間：12月4日～10日 会場：ゆめタウン江津 内容：人権ポスター・標語・メッセージの展示 表彰式：各学校 ●人権啓発カレンダーの作成・配布（2,500枚）	140,439
合 計	407,208

○事業の効果

新型コロナウイルス感染症の影響から、コミュニティでの人権講座の希望は半数以下だったが、このコロナ禍の中で更に人権意識が大切であることに気付いてもらえたことがアンケートから伺える。

学校の人権集会も、感染拡大防止のために中止としたところもあるが、会場設定や学年を限定するなどして、各校が様々な人権課題を取り上げ、考える機会として積極的に取り組んでいる。

人権啓発作品は、自らが作成することや他の児童・生徒の作品を鑑賞することで、人権に関する様々な気づきにつながった。また、会場を商業施設にしたことで、より多くの市民に見てもらえた。

ウ、評価及び課題

コロナ禍で、8コミュニティが講座を希望(4割)された。不安や怖れへの排他的な気持ちから起きる差別に気付き、誰もが安心して暮らせるまちづくりには、多様性を受け入れる人権意識が大切であり、差別されがちな特性等について理解を深められる機会をもつことが必要である。まずは講座の開催を呼びかけ、回数を増やしていく。

いじめやLGBTへの対応等、学校現場における人権問題学習は子どもたちのみならず、教職員にも必須である。各学校の自主性を尊重しながら、学校現場からの様々な要望に応えられるよう、今後も教育委員会がアシストしていく必要がある。

人権啓発作品については、年々応募数が減っている。児童・生徒がここに傷つく人がある、こんなことも人権を守ることなんだと気づける仕掛けを提案していく必要がある。

18. 図書館運営事業

予算現額（円）	決算額（円）
26,946,000	26,443,850

ア、事業の目的・目標

市民の文化教養を高めるため、情報化時代にふさわしい多種の図書資料を収集整備し、市民に自由で公平な利用ができる場を提供する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容及び実績

●支出状況

費 目	金額（円）	内 容
報 酬	17,500	図書館協議会委員報酬
旅 費	15,600	図書館協議会委員旅費
需 用 費	1,112,613	光熱水費
役 務 費	12,204	自動車損害保険料
委 託 料	22,770,000	指定管理料
工事請負費		
備品購入費	2,499,933	図書購入費
負担金及び交付金	16,000	島根県公共図書館協議会会費等
合 計	26,443,850	

●蔵書冊数

区 分	蔵書冊数	受入図書	廃棄図書	令和元年度末 蔵書冊数
本 館	74,175 冊	1,668 冊	1,091 冊	74,752 冊
桜江分館	16,424 冊	263 冊	1 冊	16,686 冊
計	90,599 冊	1,931 冊	1,092 冊	91,438 冊

●利用状況

区 分	本 館	桜江分館	移動図書	計
開館日数	265 日	265 日		
入館者数	7,704 人	3,074 人		10,778 人
利用者数	5,098 人	1,312 人		6,410 人
登録者数	842 人	175 人		1,017 人
貸出冊数	32,444 冊	4,310 冊	26 冊	36,780 冊

●文化活動

講 座 等	会員数	開催日数	開催期日 または定例日
古文書を読む会	23 人	10 回	毎月第1土曜日 14:00～16:00
歴史を楽しむ会	9 人	2 回	毎月第2月曜日 14:00～16:00
本と子育てを語る会	10 人	0 回	毎月第4日曜日 13:30～16:00

●その他

・催し

8/1（土）～9/28（月）	としょかん縁日	参加者 本館14人 分館6人
10/11（日）～31（土）	としょかんまつり（読書週間企画）	
12/23（水）～1/16（土）	福ぶっくろ	参加者 本館50袋 分館30袋
12月中旬～	としょ活	
6月・9月・2月	ええこバック	参加者 22袋
2/1（月）～	雑誌の付録もらっちゃおう！抽選会	参加者 112人 当選11人

・読書普及・文化活動の支援

読み聞かせ支援コーナー設置とブックレット作成（春・秋・冬）

・その他

江津市図書館協議会 8/19（水） 委員10名出席
書店注文サービスの開始（令和2年7月～）

○事業の効果

蔵書の充実や文化活動への支援、独自の催しや広報活動等により、少しずつではあるが、図書館利用者の増加につながっている。

ウ、評価及び課題

図書検索システム・オンライン予約システムが導入できていない状況であるが、コロナ禍においても、利用者増の取り組みが行われている。今後も江津市図書館・歴史民俗資料館建設の実現に向け取り組みを続けていきたい。

19. 社会教育活動費

予算現額（円）	決算額（円）
769,000	767,840

ア、事業の目的・目標

生涯の各時期にわたって幅広く学習活動ができるよう、市民の学習要求を満たし、自己啓発がすすめられる集団学習と地域活動を奨励する。

イ、施策の内容、実績及び効果

1 出前講座

○事業の内容

市民が受講したい内容をメニュー表から選び、市職員・公的機関職員等が講師となり地域へ出向いて講座を実施する。

○事業の実績

実施件数および参加者数

令和2年7月～令和3年3月 95件 2,307人 （令和元年度 116件 2,833人）

○事業の効果 【受講者・アンケートより】

市民の行政制度などの理解が深まるとともに、庁内メニューの注文があった担当職員は講座の資料づくりに始まり進行・説明・取りまとめを行うため、事業の習熟、資料のまとめ方や説明力の向上が図られた。

●事業費の内訳

印刷製本費（出前講座メニュー表）	93,500 円
------------------	----------

2 地域活動支援事業

○事業の内容

女性の目から見た地域課題の研修や人づくり・地域づくりのための学習活動で、討議、実験演習、見学など幅広い活動を行う。

○実施主体

江津市連合婦人会、各地域8婦人会

○事業の実績

実施件数および参加者数 47回 1,439人

○事業の効果

各地区における婦人会活動の中核事業とし、女性の感性による様々な課題解決により、「元気・勇気・感動」のいきいきとした町づくりに積極的な貢献をすることができた。

●事業費の内訳

委託料（各地区へ200,000円、連合会500,000円）	700,000 円
-------------------------------	-----------

・事務費

負担金	63,000 円
-----	----------

ウ、評価及び課題

出前講座は地域団体の幅広い年齢において学習の機会の提供が図られている。今後も、メニューの改善、参加構成団体（民間を含む）の拡充、講座の充実を図りたい。

地域活動支援事業は江津市連合婦人会に委託しており、各地域で防災・環境・消費者問題等をテーマに学習会等に取り組み、女性層をはじめ、地域全体の絆づくりに貢献している。会員が減少傾向にあるが、今後も地域コミュニティ活動への広がりを目指す。

20. ふるさと教育推進事業

予算現額（円）	決算額（円）
1,288,000	1,287,600

ア、事業の目的・目標

学校と家庭とが一体となり、ふるさとの人とのふれあい、自然・歴史・文化・伝統行事・産業等の教育資源を活用した授業や地域での体験活動を通し、子どもたちの豊かな人間性や社会性、ふるさとを大切にする心の育成を図る。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

地域講師による授業が充実し、長年にわたり積み重ねられた学習が生かされてきた。地域の「ひと・もの・こと」に直接関わりながら、それぞれの学校で独特な活動を展開する。

小学校では主に、地域に出向き、人や自然に触れたり、施設を訪ね現状を見聞かし、地域の人とのふれあいのなかで、自分たちのふるさとについて学んだ。

中学校では、地域の課題や社会の問題を知ること、自身の将来設計を考えることにつながり、学習意欲の向上が図られた。

本事業については全小中学校において実施した。

○事業の実績

	ふるさと教育の経費		計
	報償費	活動経費	
郷田小学校	10,000	60,000	70,000
渡津小学校	2,400	67,600	70,000
江津東小学校	10,800	59,200	70,000
川波小学校		70,000	70,000
津宮小学校		70,000	70,000
高角小学校		70,000	70,000
桜江小学校	6,600	63,400	70,000
江津中学校		70,000	70,000
江東中学校		70,000	70,000
青陵中学校		70,000	70,000
桜江中学校	3,600	66,400	70,000
教育委員会事業費	70,000	447,600	517,600
計	103,400	1,184,200	1,287,600

○事業の効果

- ・ 地域とのふれあいで、児童生徒の学習内容の多様化に寄与した。
- ・ 地域の伝統芸能や伝統文化の保存・伝承に携わる方に発表の場を設ける事ができ、今後の活動の活力へつなぐことができた。
- ・ ふるさと教育に関わる地域の方も子どもの成長を目の当たりにして、社会貢献の大切さややりがいを実感できた。
- ・ ふるさと江津への愛着を深める活動になった。

ウ、評価及び課題

各校で取り組んでいる地域の「ひと・もの・こと」を学ぶ学習活動において、江津市でのキャリア教育の考え方が浸透してきており、地域の未来を担うための人づくりの活動として定着してきている。

教員の異動等もあるので、事業の効果や取組内容の向上を図るためには、各学校において情報共有に努めるとともに、学校と家庭・地域・企業を含めたより一層の理解や協力体制作りを継続する必要がある。

21. 学校支援地域本部事業

予算現額（円）	決算額（円）
759,000	759,000

ア、事業の目的・目標

「学校・家庭・地域」が連携し、地域ぐるみの学校支援体制を構築し、子どもたちの健全な発育に資することを目標とする。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

近年のいじめ、不登校など、青少年をめぐる様々な問題が発生している背景として、地域における地縁的なつながりの希薄化や個人主義の浸透などによる、いわゆる「地域の教育力の低下」が指摘されている。

また、学校教育においては、教育活動以外の業務等の増加による教員の業務量の増加が問題となっており、教員の勤務負担を軽減するなど、積極的に時間外勤務を縮小し、教員が子ども一人ひとりに対するきめ細やかな指導の時間の確保が課題となっている。

これらを踏まえ、地域全体で「次世代を担う子ども」の学校の教育活動や放課後の活動を支援するため、学校・家庭・地域の連携体制の構築を図り、多様な支援を可能とし、学校・家庭・地域が三位一体となって子どもと向き合う時間の拡充を図る。

○事業の実績

1. 各小中学校においての学校支援ボランティアへの取組み

- ①学習支援活動のボランティア紹介、学校に関わる地域の人材発掘
- ②部活動指導、クラブ活動指導の人材紹介
- ③登下校時の安全指導員の調整
- ④学校環境整備活動の人員確保
- ⑤放課後子ども教室との連携
- ⑥ふるさと教育の講師・ボランティアの紹介

2. 各種研修会への参加

- ・支援活動事業数 : 合計 326日
- ・参加人数（延べ） : 合計 5,721人

○事業の効果

- ・地域コーディネーターの活動により、地域コミュニティ組織と連携しながら学校支援活動を行っているところもあり、参加者も増加傾向にある。
- ・ふるさと教育、キャリア教育、放課後支援事業にも、コーディネーターが関わるようになり、社会教育事業の核となっている。

○事業費の内訳

費 目	金額（円）	内 容
諸謝金	342,400	コーディネーター活動謝金
需用費	222,180	会議資料紙代等消耗品
役務費	194,420	ボランティア連絡用切手
計	759,000	

ウ、評価及び課題

本事業の取り組みは、学校の授業支援・学習環境の整備・登下校の見守り活動など無くてはならない事業となっており、地域と学校をつなぐ活動の核としては重要な役割を果たす活動となっている。

ただし、コーディネーターの活動状況や消耗品費の使用の仕方については、各学校により特徴があり、今後は事業の見直しの必要がある。

22. 放課後子ども教室推進事業

予算現額（円）	決算額（円）
5,126,175	4,756,071

ア、事業の目的・目標

学校・家庭・地域社会の連携協力により、子ども達が、健やかに過ごすことができる環境を整備すること。子どもとのふれあいを通じて住民同士のつながりを強め地域力のアップにつなげていくこと。保護者自身も、単に便利なサービスを楽しむ側に回るのではなく、できるだけ積極的に地域の取り組みに関わっていくこと。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

放課後子どもプラン事業（放課後子ども教室推進事業）

放課後等に地域のコミュニティ交流センター等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強・スポーツ・文化活動・交流活動等の取り組みを行う。

○事業の実績

		年間実施日数
郷田っこひろば	(郷田小学校区)	27 日
アフタースクールまつひらっこ	(郷田小学校区)	4 日
渡津子どもひろば	(渡津小学校区)	25 日
江津東すこやか広場	(江津東小学校区)	162 日
跡市放課後子どもクラブ	(跡市小学校区)	212 日
波っ子クラブ	(川波小学校区)	6 日
有福温泉子ども教室	(川波小学校区)	34 日
二宮集いの家	(津宮小学校区)	172 日
つのみやっこ広場	(津宮小学校区)	192 日
角っこひろば	(高角小学校区)	20 日
桜江小学校放課後子ども教室	(桜江小学校区)	157 日
		合計 1,011 日

○事業の効果

- ・学校、家庭、地域が連携することにより、地域で子どもの育ちを支える気運が高まった。
- ・放課後子ども教室に参加する子どもは、上級生に面倒を見てもらったり、上級生は下級生の面倒をみるなど、異年齢間の関わりの中で、相互に成長が見られる。
- ・集団で遊ぶことを子どもたちが学び、活発に活動できるようになった。
- ・そうした子どもたちの成長を目の当たりにして、事業に参画する大人も、社会貢献のやりがいや大切さを感じ、今後の地域活動への活力となった。
- ・地域住民の参画：のべ2,895人 子どもの参加：のべ13,908人

○事業費の内訳

費 目	金額（円）	内 容
報償費	4,626,300	各教室コーディネーター等謝金
需用費	114,071	各教室消耗品等
役務費	15,700	各教室コーディネーター等保険料
計	4,756,071	

ウ、評価及び課題

徐々に実施箇所数も増え地域住民と子どもとの関わりにより、お互いの「学び」の機会につながっていると言える。

一方で、新型コロナウイルス感染症対策により、一時期開催が不可能な時期もあった。今後も感染症対策に重点を置きながら、事業実施の判断をしなければならない。

23. 放課後児童クラブ事業

予算現額（円）	決算額（円）
84,215,000	84,092,718

ア、事業の目的・目標

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童等に対し、適切な遊び及び生活の場を提供して健全な育成を図る。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

市内の7つの放課後児童クラブの運営を社会福祉法人等に委託して行う。

○事業の実績

費 目	金 額（円）	内 容
需 用 費	348,520	消耗品、光熱水費、修繕料他
役 務 費	125,118	通信費、手数料、火災保険料他
委 託 料	83,619,080	運営委託、浄化槽管理、設計委託
合 計	84,092,718	

令和3年3月31日現在

児童クラブ名	入所児童数					
	指導員数	1 年	2 年	3 年	4 年～	合計
津宮放課後児童クラブ	5	28	25	13	0	66
高角放課後児童クラブ	6	19	15	8	1	43
江津東放課後児童クラブ	3	9	9	6	6	30
桜江放課後児童クラブ	3	9	8	6	8	31
渡津放課後児童クラブ	3	12	11	4	5	32
川波放課後児童クラブ	3	7	8	3	5	23
郷田放課後児童クラブ	3	14	6	9	3	32
計	26	98	82	49	28	257

○事業の効果

放課後及び長期休暇中の子どもの安全と健全な育成を推進し、保護者の就業支援に寄与している。

ウ、評価及び課題

平成28年度より対象児を「小学校に就学している児童」としたことから、応募が定数を超える児童クラブが増えており、児童の受け入れ体制（施設整備、支援員確保）の整備が必要となっている。

現段階では、長期休業中のみを受け入れる児童クラブはないが、保護者のニーズは高まってきている。今後、検討が必要。

24. ふるさと・キャリア教育推進事業

予算現額（円）	決算額（円）
3,930,000	3,930,000

ア、事業の目的・目標

地域の「ひと・もの・こと」をいかした学習活動をとおして、ふるさとへの愛着と誇りを育むとともに、今の学びと未来の生活のつながりを常に意識して、子どもたちの自立を目指す教育を推進する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- ・ 地域や異文化との交流事業
- ・ 地域企業（団体）との連携事業（体験活動など）
- ・ 地域を知るための自然体験・学習活動
- ・ 職場見学、職場体験
- ・ 地域の教育力と連携した放課後、土曜日等に行う学習活動
- ・ 地域の保育・教育施設（異施設種）との横や縦、斜めのつながりを創るための活動
- ・ 先進的な取り組みを実施しているキャリア教育に関する研究者・従事者を招いた講演

○事業費の実績

委託先：NPO法人「てごねっと石見」 委託料：3,930,000円

費目	金額（円）	備 考
委託料	3,930,000	保育・学校活動費・コーディネーター人件費等
合 計	3,930,000	

○事業の効果

- ・ ふるさとの文化や歴史、自然人々について学び、ふるさとへの愛着や誇りを育て、ふるさとへ貢献しようとする意欲と態度を育成することができた。
- ・ 児童、生徒が周囲の人、ふるさとの大切さに気付くとともに、ふるさとに支えられている存在であるということが認識できた。
- ・ 地域の人材が「我がまちの学校」として、学校を末永く支援してくれる体制づくりができた。
- ・ 地域、企業と学校との連携だけでなく、小学校と高等学校、保育所と中学校、大学校などの市内保育・教育機関との連携が活発になった。

ウ、評価及び課題

本年度も全ての小中学校で事業実施し、地域と連携した学校教育活動となるよう推進してきた。また、保育機関や高校・大学校との連携も継続してできていた。今後も、各機関において継続して事業を実施していただけるよう体制作りも強化していく。

25. 教育魅力化推進事業

予算現額（円）	決算額（円）
8,600,000	8,600,000

ア、事業の目的・目標

学校・家庭・地域の連携を図りながら、幼稚園（保育所）・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学校という「校種の壁」を越えた一体的・系統的な教育活動を展開し、地域の特色を活かした「教育の魅力化」に取り組む。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- ① 市内の幼稚園（保育所）、小・中・高等学校、ポリテクカレッジ島根と地域・行政が一体となって実施する「高校の魅力化」に取り組む。
- ② 「高校の魅力化」はもちろん現在実施している江津市の「ふるさと・キャリア教育」をさらに充実させるため、これらの取り組みを総合調整し地域の機運を醸成する統括プロデューサーを配置する。
- ③ 市内小中高校に対して、わくわくエンジン®発見プログラムを実施。また、発見プログラムに関わるナビゲーターの養成を行った。
- ④ 小学生児童に対して楽器体験の教室を実施。小学生児童に対して地域の音楽団体・音楽家・中学校吹奏楽部が協力して楽器体験の教室を行った。他の小学校とのつながり以外にも教室に関わる大人等の楽器体験の教室を行った。他の小学校とのつながり以外にも教室に関わる大人等のタテ・ヨコ・ナナメの関係を作ることができた。

○事業の実績

- ① 委託先：NPO法人「てごねっと石見」 委託料：4,400,000円

費目	金額（円）	備 考
委託料	4,400,000	高校魅力化コーディネーター業務
合 計	4,400,000	

- ② 委託先：合同会社EGAHOUSE&COMPANY 委託料：4,200,000円

費目	金額（円）	備 考
委託料	4,200,000	統括プロデューサー配置委託料
合 計	4,200,000	

○事業の効果

- ・ ふるさとキャリア教育との連携（親しみや憧れ）により地元高校への進路の選択枝が増えた。
- ・ ふるさとの魅力を伝えること（地域情報の伝達）により進路の選択枝が増えた。

ウ、評価及び課題

統括プロデューサーを配置することによって、小中高・企業等の総合調整を行い連携した事業を行うことができた。また、自分自身の好きなこと・やりたいことを見つけるための手助けをする新たな仕組みを取り入れた事業を多数の小・中学校で実施できた。今後はこの事業を全校展開し、定着させていきたい。

26. 埋蔵文化財発掘調査事業

予算現額（円）	決算額（円）
6,818,685	6,635,638

ア、事業の目的・目標

埋蔵文化財の適正な保護及び文化財保護思想の普及啓発を図る。

イ、施策の内容、実績及び効果

○施策の内容

文化財保護法に基づく開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準に則して、必要な埋蔵文化財調査を実施する。また、出土品を適切に取り扱い、活用に資する。

○施策の実績

●遺跡発掘調査費

- ・国庫補助事業（45.8%補助）
- ・内容：詳細分布調査、鉄製品保存処理
- ・期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日
- ・補助金額：4,612,990円

費目	金額（円）	内容
報酬	2,531,026	パートタイム会計年度任用職員報酬
職員手当等	57,523	会計年度任用職員期末手当
共済費	217,382	雇用保険料・社会保険料・労災保険料
旅費	48,000	普通旅費・会計年度任用職員旅費（パート）
需用費	801,451	消耗品費・光熱水費・印刷製本費・燃料費等
役務費	156,688	通信運搬費・手数料
委託料	633,600	業務委託料（その他）
使用料及び賃借料	167,320	自動車借上料・機械借上料・器材借上料・コピー機等使用料
計	4,612,990	

- ・効果：これまで把握できていなかった甘南備寺山の山城跡を確認した。また、江津本町において、石見焼窯を3D調査した。これらの調査により、江津市の史跡を新発見し、当市の歴史を理解するための資料を得ることができた。

●半田浜遺跡調査事業（発掘調査）

- ・原工務所委託事業（100%補助）
- ・内容：砂採取事業に伴う遺跡（半田浜遺跡）の記録保存を目的とした発掘調査
- ・期間：令和3年1月18日～令和3年2月19日
- ・委託金額：599,963円

費目	金額（円）	内容
報酬	461,263	作業員賃金
報償費	10,000	調査指導
使用料及び賃借料	128,700	調査器材一式
計	599,963	

- ・効果 面積約1000㎡を調査し、古代の遺構・遺物を発見した。遺物はコンテナ1箱の量であり、新たな地域史解明に繋がる資料を得ることができた。

26. 埋蔵文化財発掘調査事業（2ページ目）

イ、施策の内容、実績及び効果

○施策の実績

●波積ダム文化財総合調査事業（発掘調査） 繰越分（100%補助）

費目	金額（円）	内容
報酬	389,712	調査補助員・事務補助員・作業員
報償費	10,000	調査指導謝礼金
旅費	3,960	連絡旅費
需用費	4,062	消耗品費・光熱水費・燃料費等
役務費	950,400	電話代・手数料
委託料	64,551	測量・分析委託
計	1,422,685	

- ・効果：中近世の遺構・遺物を発見した岩瀧寺跡の発掘調査の報告書を作成し、300冊を刊行した。また、刊行物を関係各所に送付した。

○事業の効果

これまで把握できていなかった文化財を確認した。また、大学と連携し、江津本町において、石見焼窯を3D調査した。これらの調査により、江津市の史跡を新発見し、当市の歴史を理解するための資料を得ることができた。今後もこの連携については、継続していきたい。

ウ、評価及び課題

大きな遅れもなく事業を実施できた。また、多くの調査を実施することにより、これまで把握できていなかった市文化財を確認できた。

今後も市文化財の整理を継続的に行い、地域史研究や出前講座などの社会教育活動における活用を目指す。

27. 総合市民センター費

予算現額（円）	決算額（円）
38,024,000	37,979,867

ア、事業の目的・目標

江津市総合市民センターの維持管理と、各設備の修繕・改修工事を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

江津市総合市民センターの維持管理は、指定管理に関する基本協定に基づき指定管理者と分担し、市では大規模な改修・修繕工事を行っている。

○事業の実績

費目	金額（円）	内容
需用費（修繕料）	176,000 1,408,000 407,000 297,000 198,000	ファンコイルモーターベアリング交換工事 空調機系統コントローラー更新 空調機加湿用部品交換修理 防排煙装置用電源装置設置工事 舞台照明設備 調光器盤修繕
役務費	60,247	建物損害保険
委託料	35,308,000 125,620	指定管理料 点検業務委託料
合計	37,979,867	

月別利用状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入館者（人）	231	60	233	313	487	892	1,934
入館料（円）	58,780	18,070	49,920	140,580	164,680	429,430	638,350
区 分	11月	12月	1月	2月	3月	計	
入館者（人）	1,162	126	2,950	696	1,102	10,186 人	
入館料（円）	222,900	60,830	196,780	182,090	388,420	2,550,830 円	

○事業の効果

施設・設備の改修を行うことで、長寿命化を図ることができた。

ウ、評価及び課題

開館後20年以上経過し、建物・施設内設備ともに老朽化している。定期点検等により改修・修繕の洗い出しを行っており、優先順位をつけながら今後も計画的に改修・修繕していく必要がある。

28. GIGAスクール構想整備事業

予算現額（円）	決算額（円）
289,313,000	268,151,290

ア、事業の目的・目標

全小中学校の児童生徒一人に1台の学習者用端末（タブレットパソコン）を整備するとともに、非常時においても児童生徒の学びの保障をするための環境整備を行う。
校内通信ネットワーク環境の整備とあわせ、国の求めるICT環境整備のスタンダード像の実現を図ることにより児童生徒がそれぞれの学びを確実にし、深めることを目的とする。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

市内小中学校の校内通信ネットワーク及び各教室への端末充電保管庫を整備する。
1人1台端末、障がいのある児童生徒が端末の使用にあたり必要となる装置、Wi-Fiルーターの整備を行う。

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
委 託 料	57,372,150	校内通信ネットワーク整備及び端末充電保管庫整備
	125,532,000	教育ネットワークサーバ増強及びソフトウェア整備
	1,122,000	GIGAスクール構想整備に係るコンサルティング
工 事 請 負 費	695,200	L3スイッチングハブ専用コンセント増設工事
備 品 購 入 費	76,994,940	学習用タブレット端末整備
	3,080,000	教育ネットワークストレージサーバ整備
	1,936,000	学習用モバイルWi-Fiルーター整備
	1,419,000	Webカメラ、マイク機能付きヘッドセット他
合 計	268,151,290	

○事業の効果

市内全小中学校の普通教室及び特別教室への高速大容量の校内通信が可能となった。
学習者用タブレット端末を1人1台整備し、ICTを活用した授業が可能となった。
通信機器やカメラ、マイク等を整備し、感染症流行等の非常時においても遠隔授業を行うための環境を整えることができた。

ウ、評価及び課題

高速通信が可能となるような校内通信ネットワークと1人1台のタブレット端末を整備し、一人ひとりの学びを深める授業を行うための環境を整えることができた。
各学校においてタブレット端末をどう活用していくのかについては今後模索していくこととなるため、ICT支援員の配置の検討も含めて引き続き支援をするとともに、児童生徒に対する情報モラル教育についても早急に取り組む必要がある。

29. 新型コロナウイルス感染症対策費（事務局費）

予算現額（円）	決算額（円）
6,700,000	6,572,500

ア、事業の目的・目標

新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう必要な物品の購入や環境整備等を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- ・夏季休業期間の短縮に伴う、学校における暑さ対策に係る環境整備を行った。
- ・給食配膳室にエアコンを設置した。（一部ミストファン対応有）
- ・冷水器を設置した。

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
工事請負費	5,324,000	エアコン設置
備品購入費	1,248,500	ミストファン、冷水器
合 計	6,572,500	

○事業の効果

- ・熱中症対策や食中毒対策を進めることができた。

ウ、評価及び課題

感染症対策を行いながら学校教育活動を行う中で必要となる備品を整備したことにより、児童生徒及び教職員が安心して学校生活を送ることにつながった。

30. 新型コロナウイルス感染症対策費（小学校）

予算現額（円）	決算額（円）
19,864,000	12,834,683

ア、事業の目的・目標

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら児童が安心して学校生活を送ることができるための物品等を購入するとともに、児童の学習保障や教職員の負担軽減につながる業務を担うスタッフを配置する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校の一斉臨時休業からの再開を支援するため、密閉・密集・密接を回避するとともに、児童・教職員の感染症対策に必要な物品および消耗品の購入や、夏季休業期間短縮に伴う熱中症対策等にかかる環境整備を行う。
- 感染症対策等を徹底しながら、児童の学びを保障するための取り組みとして必要となる物品および消耗品等の購入を行う。
- 臨時休業中の学習における未指導分の補習や学習の定着のための指導を行う学習指導員、および感染症対策のための校内消毒や学習用プリント配布の準備等を行い教職員の負担を軽減するスクールサポートスタッフを配置する。

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	5,182,000	学習指導員・スクールサポートスタッフ報酬
需要費	3,388,586	消毒液・マスク他
役務費	14,210	臨時休業の家庭学習・連絡に伴う文書発送料
工事請負費	1,756,700	エアコン設置
備品購入費	2,493,187	サーキュレーター・パーテーション・モニター他
合 計	12,834,683	

○事業の効果

- 消毒液やオートディスペンサー、非接触型体温計、飛沫防止用アクリル板等、児童が健康で安心して学校生活を送るための整備を行った。
- 密閉・密集・密接回避のため、空き教室を活用した少人数授業を行う際の大型モニターやサーキュレーター、暑さ対策のためのスポットクーラーや冷風機等の整備を行った。
- 臨時休業からの学校再開に伴い、未学習分を補うとともに既習内容の定着を図るために必要となる教材やプリンターの整備を行った。
- 学校内の消毒作業などの感染症対策の補助や、学習支援・家庭連絡のためのプリントの印刷等を行うスクールサポートスタッフを配置することで、教職員の負担を軽減へとつなげることができた。
- 少人数による授業を行う際の児童一人ひとりへの細やかな声かけや学習につまずきが見られる児童への支援を行うとともに、家庭学習のチェック等を行う学習指導員を配置し、学びの定着を図るための指導を行った。

ウ、評価及び課題

感染症対策を行いながら学校教育活動を行う中で必要となる備品や消耗品を整備したことにより児童が安心して学校生活を送ることにつながった。

児童に配布するプリントの準備や校内の消毒作業等を行うスタッフの配置については学校のニーズも高く、引き続き配置に向けて検討する。

3 1. 新型コロナウイルス感染症対策費（中学校）

予算現額（円）	決算額（円）
12,005,561	7,927,561

ア、事業の目的・目標

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら生徒が安心して学校生活を送ることができるための物品等を購入するとともに、生徒の学習保障や教職員の負担軽減につながる業務を担うスタッフを配置する。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校の一斉臨時休業からの再開を支援するため、密閉・密集・密接を回避するとともに、生徒・教職員の感染症対策に必要な物品および消耗品の購入や、夏季休業期間短縮に伴う熱中症対策等にかかる環境整備を行う。
- 感染症対策等を徹底しながら、生徒の学びを保障するための取り組みとして必要となる物品および消耗品等の購入を行う。
- 臨時休業中の学習における未指導分の補習や学習の定着のための指導を行う学習指導員、および感染症対策のための校内消毒や学習用プリント配布の準備等を行い教職員の負担を軽減するスクールサポートスタッフを配置する。

○事業の実績

費 目	決算額（円）	備 考
報 酬	3,360,000	学習指導員・スクールサポートスタッフ報酬
需要費	1,500,191	消毒液・マスク他
役務費	9,840	臨時休業の家庭学習・連絡に伴う文書発送料
備品購入費	3,057,530	サーキュレーター・パーテーション・モニター他
合 計	7,927,561	

○事業の効果

- 消毒液やオートディスペンサー、非接触型体温計、飛沫防止用アクリル板等、生徒が健康で安心して学校生活を送るための整備を行った。
- 密閉・密集・密接回避のため、空き教室を活用した少人数授業を行う際の大型モニターやサーキュレーター、暑さ対策のためのスポットクーラーや冷風機等の整備を行った。
- 臨時休業からの学校再開に伴い、未学習分を補うとともに既習内容の定着を図るために必要となる教材やプリンターの整備を行った。
- 学校内の消毒作業などの感染症対策の補助や、学習支援・家庭連絡のためのプリントの印刷等を行うスクールサポートスタッフを配置することで、教職員の負担を軽減へとつなげることができた。
- 少人数による授業を行う際の生徒一人ひとりへの細やかな声かけや学習につまずきが見られる生徒への支援を行うとともに、家庭学習のチェック等を行う学習指導員を配置し、学びの定着を図るための指導を行った。

ウ、評価及び課題

感染症対策を行いながら学校教育活動を行う中で必要となる備品や消耗品を整備したことにより生徒が安心して学校生活を送ることにつながった。

生徒に配布するプリントの準備や校内の消毒作業等を行うスタッフの配置については学校のニーズも高く、引き続き配置に向けて検討する。

32. 新型コロナウイルス感染症対策費（放課後児童クラブ事業）

予算現額（円）	決算額（円）
8,091,000	7,990,520

ア、事業の目的・目標

放課後児童クラブにおいて新型コロナウイルス感染症対策を行う。

イ、施策の内容、実績及び効果

費 目	金 額（円）	内 容
需 用 費	4,113,000	消耗品（マスク・消毒液等）
委 託 料	1,127,520	教育関連事業委託料（放課後児童クラブコロナ感染症対策分）
負担金補助及び交付金	2,750,000	放課後児童クラブ等従事者応援協力金
合 計	7,990,520	

○ 事業の効果

新型コロナウイルス感染症対策として、児童クラブの安全衛生の充実を図り、放課後及び長期休業中の子どもの安全で健全な生活の場を継続して提供した。

ウ、評価及び課題

放課後児童クラブ運営者及び現場の支援員、児童の協力により、放課後児童クラブにおいて感染拡大を招くことはなかった。

今後も新型コロナウイルス感染症対策に必要な消耗品等の購入経費を確保していく必要がある。

33. 新型コロナウイルス感染症対策費（学校給食費）

予算現額（円）	決算額（円）
3,620,000	2,531,553

ア、事業の目的・目標

小中学校の夏休みの短縮に伴い、暑い夏季期間の学校給食をより安全で安定的に供給するため、給食センターに空調設備を整備する。また、新型コロナウイルス感染症対策を行うために必要な物品類を整備し、衛生管理と調理環境の改善を図る。

イ、施策の内容、実績及び効果

○事業の内容

給食センター及び学校で使用するマスク、手袋、消毒液などの購入
桜江学校給食センター エアコン2基(リース)6/20から10/31

○事業の実績

費 目	内 容 等	決算額（円）
需用費	消耗品費	1,600,953
需用費	修繕料	462,000
使用料及び賃借料	器材借上料	468,600
合 計		2,531,553

○事業の効果

桜江学校給食センター調理室にエアコンを追加設置したことにより、調理環境が改善した。
また、給食センターや学校において、新型コロナウイルス感染症対策としての消耗品（マスク、手袋、消毒液など）を購入し、使用することにより感染症対策を講じることができた。

ウ、評価及び課題

桜江学校給食センターについては、これまで特に調理室における夏場の暑さ対策が課題であったため、今回調理環境の改善を講じることができた。今後も、暑さ対策や新型コロナウイルス感染症等への対策を行うために必要なものを整備し、安全安心な学校給食が提供できるよう衛生管理と調理環境の改善を図っていく必要がある。